

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第4区分
 【発行日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【公表番号】特表2007-504358(P2007-504358A)
 【公表日】平成19年3月1日(2007.3.1)
 【年通号数】公開・登録公報2007-008
 【出願番号】特願2006-524599(P2006-524599)
 【国際特許分類】

C 2 2 C 9/01 (2006.01)
 C 2 2 C 9/10 (2006.01)
 C 2 2 C 9/06 (2006.01)
 C 2 2 C 9/00 (2006.01)
 C 1 0 J 3/00 (2006.01)

【F I】

C 2 2 C 9/01
 C 2 2 C 9/10
 C 2 2 C 9/06
 C 2 2 C 9/00
 C 1 0 J 3/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月13日(2007.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

チューブ、パイプ、プレート、ストリップ、ワイヤの形状を持ち、浸炭、メタルダスティング、コーキングに対して耐性を持ち、耐酸化性をも備え、荷重保持部材と耐食部材とから成る製品において、

上記耐食部材は最小厚さが0.5mmであり、下記組成(wt%)の銅基合金から成る：

A l : 2 ~ 2 0、

S i : 0 を 超 え 6 以 下、

イットリウム、ハフニウム、ジルコニウム、ランタン、および/またはセリウムのような希土類金属の群の1種以上：個々に1.0以下、総量で3.0以下、

鉄、ニッケル、コバルトおよびマンガンの1種以上：総量で20以下、

C u : 残 部

および通常の添加元素および不純物
 ことを特徴とする製品。

【請求項2】

請求項1において、上記耐食部材の最小厚さが1mmであることを特徴とする製品。

【請求項3】

請求項1または2において、上記銅基合金が、4~13wt%のA l を含有することを特徴とする製品。

【請求項4】

請求項1から3までのいずれか1項において、上記銅基合金が、5wt%以下のS i を含有することを特徴とする製品。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項において、上記銅基合金が、イットリウム、ハフニウム、ジルコニウム、ランタン、および/またはセリウムのような希土類金属の群の 1 種以上を総量で 0.5 wt% 以下を含有することを特徴とする製品。

【請求項 6】

請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項において、上記荷重支持部材と上記耐食部材とが、望ましくは接触面全体にわたって、冶金的に接合していることを特徴とする製品。

【請求項 7】

CO 含有雰囲気中にて、および/または炭化水素含有雰囲気中にて、または固体炭素質材料のガス化、炭化水素の熱分解および触媒改質特に低硫黄条件下および低硫黄且つ低水分条件下での触媒改質のような固体炭素質含有プロセスにて、荷重支持部材と耐食部材とを用いて、浸炭、メタルダスティング、コーキングおよび酸化に対して抵抗する方法において、

上記耐食部材は最小厚さが 0.5 mm であり、下記組成 (wt%) の銅基合金から成る：

Al : 2 ~ 20、

Si : 0 を超え 6 以下、

イットリウム、ハフニウム、ジルコニウム、ランタン、および/またはセリウムのような希土類金属の群の 1 種以上：個々に 1.0 以下、総量で 3.0 以下、

鉄、ニッケル、コバルトおよびマンガンの 1 種以上：総量で 20 以下、

Cu : 残部

および通常の添加元素および不純物

ことを特徴とする方法。

【請求項 8】

請求項 7 において、上記荷重支持部材と上記耐食部材とを、望ましくは接触面全体にわたって、冶金的に接合することを特徴とする方法。

【請求項 9】

請求項 7 において、上記荷重支持部材と上記耐食部材とを、機械的に接合することを特徴とする方法。

【請求項 10】

CO 含有雰囲気中における、および/または炭化水素含有雰囲気中における、または固体炭素質材料のガス化、炭化水素の熱分解および触媒改質特に低硫黄条件下および低硫黄且つ低水分条件下での触媒改質のような固体炭素質含有プロセスにおける使用に適した請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の製品。

【請求項 11】

請求項 10 において、使用温度が 1030 以上であることを特徴とする製品。